

だいせんの偉人先人たち

佐々木雪洞

【分類】 画家
【生没年】 1811年 ~ 1879年
(文化8年) (明治12年)



「鷹の図」

雪洞は土川に生まれ、幼少のころから勉学に励み、また絵を好み、余暇があれば書を読み字を習い絵を描いていたが、20歳のころ、絵で身を立てることを決意して家を出た。28歳で現福島県東白川郡塙の庄屋の別当宅に身を寄せ、ここを本拠として多くの作品を残している。雪洞の絵は谷文晁に学んでおり、花鳥、人物、山水等広く描いているが、中でも鷹の絵がうまく、「雪洞の鷹」と言われるほど鷹の絵は秀でて有名。60歳のころ帰郷し、1年余り滞在して絵を描き、絵には「耳順幾才」と落款している。福島では寺子屋を建てて子弟の教育に尽くしたため、福島に門弟が建てた墓碑がある。

出典 『郷土の先人大仙市西仙北地域』2011、郷土の先人調査・編集委員会／編